

プロジェクト名	Web を活用した授業外における協同学習環境のデザイン		
プロジェクト期間	平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	松尾剛 (教育心理学講座)	共同研究者 (所属講座等)	安部順子 (教育心理学講座) 大坪靖直 (教育心理学講座) 杉村智子 (教育心理学講座) 坂中正義 (教育心理学講座) 友清由希子 (教育心理学講座)
取組方法および 取組実績の概要	<p>高等教育における協同学習の重要性が指摘されるようになって久しいが、その実現は容易ではない。そこで本研究では演習における授業外での協同学習を促す事を目的として、Web 上の掲示板を活用した実践を行い、掲示板の利用に関する学生の認識と学習への影響を検討した。2010 年の後期に筆者が担当をする演習授業を受講した大学 2 年生 18 名(男性 3 名, 女性 15 名)および、2011 年の後期に同じ演習授業を受講した大学 2 年生 25 名(男性 9 名, 女性 16 名)を対象として実践と調査を行った。全員が 1 回ずつ発表を経験した後の授業で、Web 掲示板の利用に関する質問紙調査を実施した。質問項目は「掲示板の利用状況」(書き込み回数、閲覧頻度など)、掲示板の利用に伴う「不安や抵抗感」、「論文の批判的読解」、「動機付け」、「授業への参加の仕方」などの項目から構成されていた。また、掲示板の活用についての意見や感想を自由に記述するように求めた。2010 年度の解答者は 15 名(男性 1 名, 女性 14 名)、2011 年度の解答者は 19 名(男性 8 名, 女性 11 名)であった。</p>		
研究成果の概要	<p>2010 年度は 39 件、2011 年度は 38 件の投稿がなされた。1 週間の閲覧頻度は、2010 年度は自分が発表を行う週で平均 5.07 回($SD=2.94$)、発表以外の週には平均 3.27 回($SD=2.09$)、2011 年度は発表を行う週には平均 4.11 回($SD=2.56$)、発表以外の週には平均 2.00 回($SD=0.82$)という回答が得られた。利用に伴う認知的過程や学習への影響として以下の 3 点が示された。(1)2010 年度は「不安や抵抗感」と「書き込み回数」との間に $r=-0.53$ の負の相関が見られた。ところが 2011 年度の学生では両者に有意な相関は見られなかった。(2)「論文の批判的読解」と「書き込み回数」「閲覧頻度」との相関係数を算出したが、結果として有意な相関は見られなかった。同様に「動機付け」との間にも相関係数を算出したが有意な相関は見られなかった。(3)「発表者としての参加の仕方」と「書き込み回数」「閲覧回数」との相関係数を算出したが、結果として有意な相関は見られなかった。同様に「フロアとしての参加の仕方」との間にも有為な相関は見られなかった。このように、本研究においては掲示板の活用と演習授業における学習との間に明確な関連性は示されなかった。ただし、自由記述回答の中では両者の関連性を示す回答が見られた。書き込みに伴う【負の感情の生起】や【学生独自の暗黙の評価基準</p>		

<p>の生成と混乱】などの学習を抑制する要因も見出されたため、その影響を減少させる手だてを考案していくことが今後の課題として明確になった。</p>			
<p>外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について</p>			
<p>外部資金獲得 申請（予定）</p>	<p>科学研究費補助金</p>	<p>研究成果の 公表方法（予定）</p>	<p>福岡教育大学紀要</p>